
漆黒の館と可笑しな変人

楼月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

漆黒の館と可笑しな変人

【Nコード】

N9001Y

【作者名】

楼月

【あらすじ】

幼い頃最愛の兄を事故で亡くした少女、柳田^{やなぎた}朱音^{あかね}彼女の願いはただ一つ。

「兄に逢いたい」

そんな中、学校で不思議な噂が出回り初め…

噂が出回り出したある日、朱音の前にいかにも怪しい男、黒谷^{くろたに}銀^{ぎん}が現れた。

銀の出会いが朱音の運命を大きく変える？のかな？

少女

過去というモノは幸せなモノばかりではない。

時に残酷でどんなに逃げてても逃げてても必要に追いかけて来る。

だからといって過去に戻ってやり直せる訳でもない……そう、そんな事分かってる、分かってる…

嫌と言うほど自分に言い聞かせて来た。だからこそ、余計に思ってしまうのだ。

もしも、もしも、過去を変える事が出来たとしたら…過去に戻れたなら…

「…っ、バカらし」

最近の私はいつもこうだ。叶いもしない夢を見て、あの人を思い出して涙を流す。

なんだか、自分が情けなくて笑える。…なのに涙が止まらない。

過去、過去、過去過去過去過去

頭の中でぐるぐると回るその言葉はまるで呪いのように少女を苦しめる。

薄暗い部屋の中で少女の
泣き声だけが小さく響く。

そして、夜はふけていった…

悪夢（前書き）

少女の悪夢、そして日常

悪夢

その晩、私は夢を見た。小さい頃の。

私の隣には兄が居て、見慣れた街を歩いていた。私が兄の手を握ると、兄は微笑んでいた…様な気がした。逆光で兄の顔が良く見えな
い、けど照れくさそうに笑っていて、こんな日々がいつまでも続
く
と思
った…

だが、その瞬間、私の目の前が真っ暗になった。

『……お、兄ちゃん？』

いつの間にかさっきまで隣に居た兄が居ない、それどころか街の風景も道を行き交って居た通行人も誰一人として居ない。

真っ暗になった音も無い世界に居る私。

『お兄ちゃん？何処行つたの？お兄ちゃん！』

いくら呼んでも返事は無い…

その時だった、

『『キキーツ！！！！！！！』』

突然響いた音に驚きつつ、音のした方に振り向いた……そこには……

赤

黒を塗り潰す赤色だった

「お兄ちゃん！！！！！！！！」

そこに居たのは、いや、あつたのは、血という赤色に染まり倒れて
いる兄が居た。

「お兄ちゃん！ねえ！お兄ちゃん！お兄ちゃん！」

兄に駆け寄った私は何度も何度も兄の体を揺すり名前を呼び続けた。

しかし、反応は無い、それどころか兄の体は徐々に冷たくなっていく。

[illegible]

真つ暗な世界で赤に染まり動かなくなった兄の亡骸を前にして、幼い私はただただ泣き叫ぶしか出来なかった…

「……………!!!!!!」

そこで、目が覚めた。

「ハアハアハアッハア…」

時刻は午前5時半。

最悪の目覚めだ、またあの日の夢を見てしまった。身体中真夏でも無いのに汗でびっしょり。頭がガンガンして、目の前がくらくらする。吐き気まで込み上げて来た。

「み、水、飲みたい」

喉が渴き過ぎて、水を飲み台所に向かった。

「……………はあ」

水を飲んだおかげなのか、だいぶ落ち着いてきた。でも、さっきの夢の光景を思い出すと、目眩がしてくる。

こんな朝が最近よくある。だからといって慣れる事は無い。寧ろもう二度と見たくない。

しかし、こんな事をいつまでもしてられない。
学校に行く支度をしなければ。

「ふー、…………よし！」

学校に行く事に意識を切り替え、支度始める。

これが、柳田 朱音の1日の始まりである。

悪夢（後書き）

前回は、前書き状態で分かりにくくてすみません（ ; ）

これから、頑張って書きたい！！と思います！！

小説初心者の小説ですが、良かったら次話も読んでやってください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9001y/>

漆黒の館と可笑しな変人

2011年12月1日20時48分発行